
「ゲゲゲの鬼太郎 第5部」 ～鬼太郎の、声優仕事～

A.I

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

「ゲゲゲの鬼太郎 第5部」 〈鬼太郎の、声優仕事〉

【Nコード】

N7981B

【作者名】

A・I

【あらすじ】

この物語は、最近開始された、第5部からです。史上初！鬼太郎が、名探偵コナンの、「江戸川コナン」の、声優を、務めていたので、仲間が、見たいということで、スタジオ見学に、やってきました。そこで、まさかの、今度は、コナン、オールキャラを巻き込んで、まさかの、妖怪が、スタジオに、乱入！？事件と同時に、大変なことになる、面白い、爆笑ストーリーです。コナンファンの人、鬼太郎ファンの人は、思い切り、楽しんで下さい。

プロローグ

ここは、ゲゲゲハウス。

鬼太郎は、今から、第2の、仕事へ、出かける所でした。

すると、ネコ娘が、やってきました。

「鬼太郎！今から、仕事？今、声優の仕事が、忙しいんでしょう？今日は、あれの、収録日なんだよね！あんたも、大変だよね・・・声を、上手く、使い分けるのが！」

砂かけババアさんの、おかげで、人間世界に、うまく、溶け込んで、あんたも、仕事が、出来るように、なったんだもんね。」

ネコ娘は、笑顔で、笑いながら、言いました。

「ああ・・・ごめん。今日、収録、行かないと、月曜日までに、間に合わなくなっちゃうんだよ。そうだ！なんなら、ネコ娘も、一緒に、来るかい？スタジオ見学」鬼太郎は、ネコ娘を、仕事場に、誘いました。

鬼太郎は、今、仕事が、大きく、舞い込んでいます。

ゴールデン・ウィーク中に、映画に、さきがけて、もう一つ！

大きい、大変な、声優の、仕事が、あるのです。

目玉のおやじが、頭の上から、身を乗り出すと、笑い出しながら、

言いました。

「お前の、もう一つの、現代の、仕事は！

ず〜っと、放映されておるからのう！

これからが、ワ〜シと、一緒に、活躍することとのう！

以前から、ワシは、話を、聞いておったが、もう一つは！

今、外国にも、出版されておる、探偵の、有名な、アニメのこと、
じゃな！

こちらで、お前は、超、有名じゃのう！」

と、笑いながら、言いました。

「ええ、そうです！父さん！全国の、子供達が、待っているんです。
僕は、元は、そちらの方の、声優仕事が、極度に、忙しいんですよ
！だからさ。僕、元は、これですもん！真実は、いつも、一つ！」

鬼太郎は、笑いながら、江戸川コナンを、かぶって、もう一つの、
演技を、やりだしました。

「あれね、あたしも、前から、見させてもらっていたんだけど、あ
んたが、やってる、もう一つの、江戸川コナンは、あの、役は、大
変だよ〜！あ〜 あたし、初めて、あれの、スタジオ、のぞける
んだ〜 感激〜」ネコ娘は、目を、輝かせてしまいました。

「じゃあ、連れてってあげる。ただし！

父さんと、ネコ娘は、大人しくしててね！

向こうでは、僕はね！

名探偵なんだから。

大きく、一味、違っちゃうってわけ。

驚かないようにね！イメージが、大きく、違っちゃうから！

父さん！この、最新の、変身薬を、持っていないと、ダメなんですよ。

これからの、時代の、僕はね！

だから、向こうでは、僕、江戸川コナンに、大变身します

ちょっと、父さんには、笑える、爆笑話かも、しれない。」

鬼太郎は、笑いながら、言うと、一反もめんを、呼び出しました。

一反もめんに、ネコ娘と、目玉のおやじを、乗せようとしたら、ネズミ男が、現れました。

「俺様も、行く お前の、仕事、俺様も、見る！

今度、映画、あるんだろ？

お前も、大変だな、キャラの、姿と性格の、切り替えが！

砂かけババアの、最新、最強アイテム！一時期だけ、仕事の時だけさ！

人間に、変身する、変身薬を、使ってまでよ！探偵と、妖怪とな！

こいつ！今年から、2つ、やることに、なるんだよな！」

ネズミ男は、笑いながら、おもしろそうだからということ、一緒に、ついていくことになりました。

鬼太郎は、はじめ、「い〜い？あそこで、臭い息を、間違っても、出してくれるなよ！」

他の、コナンキャラ達が、ビックリしちゃうからな！」と、言いました。

「了解」ネズミ男は、言いました。

こうして、鬼太郎一行は、まさかの、「名探偵コナン」の、スタジオオへと、乗り込んだのでした・・・

プロローグ（後書き）

ちよっと、とても、ややこしい、ストーリーとなりますが、実際の、声優さんは、これには、出てきません。

名探偵コナンの、声優さんではなくて、やる人が、全部、アニメキヤラクターとして、出演させてもらいます。

第1話

さて、鬼太郎一行は、「名探偵コナン」の、スタジオに、やってきました。

中に、入ると・・・

目玉のおやじさんや、ネズミ男、ネコ娘は、啞然・・・

ネコ娘、目を、輝かせちゃって、「あゝ！蘭ちゃんだゝ 私、ファンなのよゝ 空手、かっこいいよね！今度、あたしにも、空手、教えて下さいねゝ」と、蘭ちゃんと、笑顔で、握手する始末。

「あら、どうも・・・？」蘭は、苦笑いしながら、握手しました。

「やあ！鬼太郎くん！君も、何だか、すごい、ややこしい、役柄に、なってしまったなゝ！

何て、言ったら、いいのかね？

コナンくん・・・じゃない、今は、鬼太郎くんか。

ややこしいゝ、何で、ややこしい、大役に、なってしまったんだねゝ？

妖怪と、探偵なんて！

ワシ・・・これから、何て呼べば、いいんじゃない？

早速だが、江戸川コナンに、変身してくれたまえ。

こちらは、やりにくいったら、ありゃせんよ。

みんな、もう、待ちかねておるよ。」と、やってきましたのは、目暮れ警部さんだ。

「目暮れ警部！どうやら、殺人事件は、なさそうですね！真実は、いつも、一つ！」

鬼太郎は、指をさして、笑いながら、コナンを、かぶって、声だけでしたが、笑顔で、挨拶しましたが、目暮れ警部さんには、頭に、線が、入ります。

「ややこしい・・・そんな、鬼太郎の、姿で、コナンくんを、演じて、やってくれても、説得力が、ないよ。

大きく、性格が、違いすぎるじゃないか。

妖怪退治、事件解決。こちらも、殺人事件解決。

ついでに、言えば、ゲゲゲハウスで、事件相談。

こちらは、毛利探偵事務所、事件相談。

え〜い！ややこしいわい！早く、変身してくれたまえ！」

と、目暮れ警部は、困ってしまいました。

「そうだな。こいつ、鬼太郎と、コナンと、これからは、両方、やることに、なっただよな！」

おもしろいじゃね〜か！こりゃ、全国に、受けるぜ〜！

どちらも、子供だから！

お似合いだぜ〜！ギャ〜ハハハハ！な〜かなか、似合ってるじゃね〜か！

コナン〜！いや、鬼太郎ちゃん」

と、鬼太郎の頭を、なでなでしながら、突然、バ〜カ笑い出したのは、毛利小五郎さんだ。

「あなたの噂は、聞いていますよ。毛利小五郎さん。

奥さんに、逃げられたこと事態が、罪なんですよ。

妃えりさんと、よりは、戻しましたか？

毛利小五郎さん！？

あなた、死んだ後、地獄へ、落ちるかも・・・」

鬼太郎は、目を、キラ〜ンと、ワザと、光らせます。

小五郎は、「い〜！？」と、汗、タラタラ。

「こいつ、鬼太郎に、変身していると、怖いな〜」とか、言い出しました。

「ねえ、鬼太郎せんせ 僕ちゃん、地獄へ、落ちないようにするためには、どうしたらいいのか、教えて下さいよ・・・」と、肩もみだ

しました。

鬼太郎は、ため息。そして、思いきり、声だけ。

江戸川コナンに、なります。

「もう！おじさんったら！早く、奥さんと、仲直りしなさい！蘭、姉ちゃんの、為にも！生活だって、ネズミ男と、変わらないじゃない！？！つたく！しょうがないんだから！」鬼太郎は、声だけ、コナン、かぶります。

「ややこしいぜ。こいつ・・・」小五郎は、冷や汗、タラタラ、だしてました。

笑い出したのは、目玉のおやじでした。

「いやはや、小五郎さん！息子の、言う通りですぞ
ネズミ男と、お前さん、意外にいい、勝負に、なりそうですのう！」

と、笑いながら、言い出しました。

「ほんとに、目玉が、しゃべってる〜 ギャー〜！！
妖怪だ〜！本物だ〜！」

鬼太郎は、腕組みながら、小五郎に、「だから！父さんは、本物の妖怪ですよ！ぬいぐるみでも、ないんです！ほら、ほら・・・」と、笑いながら、目玉のおやじを、突き出します。

「ギャー！そんな、気持ち悪いの！近づけね〜でくれよ！それ、本物の、目玉じゃね〜か！？俺、見られてる〜！目が、動いてるよ〜

「怖いよ〜！」小五郎は、目玉のおやじが、苦手らしい。

「失礼な！ワシは、こう見えても、鬼太郎の父親じゃよ！毛利小五郎さん！」目玉のおやじは、身を乗り出して、言いました。

「ギャ〜！来るな〜！」と、怖がってしまい・・・

ついに、逃げ出しました。毛利小五郎。

そして、小五郎は、ネズミ男の後ろに、隠れます。

しかし、ネズミ男は、小五郎の、大ファンだったらしい。

明るく、話しかけてきました。

「お〜 俺、超、大ファンなんだ〜

そのしぐさ！いいね〜 あんたは、立派な、名探偵に、なれますよ！
コナンなんか、負けたら、ダ〜メですよ！

鬼太郎みたいに、真面目すぎて、イヤらしい、奴ですね！

工藤新一っていう、イヤな、名探偵が、いるんだもんな。

鬼太郎と、よく似てるじゃね〜か？な〜？

毛利小五郎が、かわいそうだぜ！バカにされてる所は、俺様と一緒に
だぜ。

俺様に、近いものが、ありそうだ！

仲良くしましょう！いい友達に、なりそうだ

一緒に仲良く、工藤新一と、鬼太郎と、やっつけれたら、いいですね！

俺様、ファンです。これからも、応援しちやいます。」

と、ネズミ男は、毛利小五郎さんと、笑顔で、握手中。

ネコ娘は、イライラして、呆れ状態でした。

毛利小五郎さんは、「ほう。あなたが、ネズミ男さんですな。300年も、手入れしてないっていう、噂は、本当ですな。いやはや、初めて、お目にかかりますぞ。私は！名探偵！毛利小五郎です！以後、お見知りおきを・・・。」

と、なにやら、名刺の交換しあったりして、すっかり、意気投合。

2人は、その後、踊りだしました・・・ルンルン、気分です。

鬼太郎は、2人を見て、「なぜか、この2人、似合ってるかも・・・」と、頭に、線が、入るのでした。

蘭は、「もう、やだ！お父さんったら！有名な、鬼太郎さん達の前で、恥かしいな・・・人間の、恥をさらすようなもんよ。」と、ネズミ男の側に、やってきました。園子が、ネズミ男を、にらみつけては、「くっさ！蘭！こいつ、マジ、超、臭い！こんな奴、嫁の貰い手が、あゝるはずが、ないわ！近づかない方が、いいよ！」と、園子は、こいつ、イヤとか、悲鳴を、あげだしました。

おもしろがった、ネズミ男は、園子ちゃんを、追いまわすハメに。キヤ〜キヤ〜、逃げ回る、園子。

「おっ？かわいいこちゃ〜ん 僕と、デートしない？」と、ネズミ男は、追いかけていました。

園子は、「しませんっ！蘭、助けてー！」と、蘭の後ろへ、逃げました。

すると、手前から、蘭が・・・？

空手をする時の、構えを、取って、ネズミ男の前に、立ちはだかります。

「ハアア・・・ウリヤ〜！！アダダダ！ダ〜リヤ〜！！」

ドガッ！！得意の、空手攻撃で、連打。ネズミ男を、やっつけてしまいました。

ネズミ男は、蘭ちゃんに、やられちゃって、ボロボロ

目玉のおやじは、戦闘を見て、ビックリ仰天。

「お〜お〜 な〜かなか、やるのう！姉ちゃん！か〜っこいい」と、拍手しながら、目玉のおやじさんは、笑っていました。

鬼太郎は、後ろで、笑いながら、拍手中

立ち上がると、蘭の側に、やってきました。

少し、戦闘的な目で、言い出しました。

「いや〜 素晴らしい

僕、蘭さんの、空手には、初めて、この目で、見させてもらって、感激しました

ぜひ、一度、僕と、お手合わせを！

ここは、1つ、願えますか？

本気で、今から、手合わせしましょう！

いや〜 蘭さんは、相変わらずですね〜

まさかの、本物の、妖怪を、やっつけちゃうなんて

ねえ、手合わせ終了後、蘭さんも、僕と、一緒に、妖怪退治、やらない？

この空手は、今後、猛烈、役に、立ちそうだ。」

と、戦闘を、見た後、蘭に、対して、興味を、抱いて、笑い出しています。

蘭は、キラリと、鬼太郎を、激しく、にらみつけると、構えを、取ったまま、言い出しました。

「なら、本気で、今から、ここで、一度、やってみる？

あなたが、相手なら、手加減しなくても、よさそうね！

・・・に、しても、あんたは！

そこで、さっきから、何を、のほほんと、してるの！

早く、変身薬を、使って、コナンくんには、戻りなさい！ややかしい！

今から、仕事なんだから！

もし、やるなら！もうた、今度に、しましろう！」

と、言いました。

鬼太郎は、「やれやれ。じゃあ、キャラを、変更すると、しますか。

」と、オババからもらった、変身薬を、使つと、江戸川コナンに、だんだんと、変身していきました。

そして。切り替えが、激しい、キャラである。

「蘭ね〜えちゃ〜ん」すっかり、元に戻った、江戸川コナンは、蘭に、飛びついていました。

「やっぱり、こうでなくちゃね〜」蘭は、頭を、いい子、いい子、していました。

ネズミ男は、「あ〜あ おい！鬼太郎！」と、声かけましたが、江戸川コナンは、「僕、今は、江戸川コナンだけど？何か？

言っておくけど、このスタジオで、悪さしたら・・・人様に、迷惑を、かけてみる！

リモコン下駄じゃなくって、僕の、サッカーボールが、飛ぶからね！ネズミ男！」

と、サッカーボールを、取り出すと、今度は、上に、乗っかると、ネズミ男を、にらみつけました。

「ひく、なんちゆう、やつちゃ！こんな、ガキに！俺様は！ややこしいよ〜！」ネズミ男は、

困り果ててしまい、頭を、抱えるのでした・・・

ネコ娘が、「あらま〜 鬼太郎よりも、背が、ちっちゃくなっちゃって 何だか、扱いにくいよ・・・でも、かわいいし 困ったわ・・・

と、困り果てていたのです。

コナンは、ネコ娘の前に、笑顔で、やってくると、「じゃあ、僕、今から、仕事だから。

父さんの、面倒、よろしくね」と、笑顔で、ウィンクして、言いました。

「分ったわ。後は、任せてね。鬼太郎！じゃ、なかった・・・えつと・・・コナンくん」ネコ娘は、ややこしい！と、困り果てて、言っていました・・・

目玉のおやじが、「ワシも、行く〜 今や、コナンも、ワシの、かわい、息子みたいな、もんじゃ〜」と、笑いながら、コナンの、頭の中に、隠れました。

今度は、コナンの、頭の上から、身を乗り出す、目玉のおやし。

他の、名探偵コナンの、キャラ達は、揃って、「これからは、ややこしい、難しい、キャラだな・・・」と、笑いながら、言い出していたのでした。

「父さん！残念ですが、この「名探偵コナン」に、父さんの、出演は、ありませんよ。

犯人を、撃退する、アドバイスする、シーンなんて、この作品には、ありませんからね！

申し訳ありませんが、父さんは、ネコ娘と、ネズミ男と、一緒に、見学してて、下さいね。

僕、声優の、仕事、がんばってきます。」と、コナンの姿して、笑顔で、今度は、鬼太郎に、声だけ、なりきっています。

コナンオールスターキャラは、その、大変、奇妙な姿に、「ややこしいな・・・コナンの姿で、声だけ、鬼太郎に、なりきって、親子を、してても、説得力、ないよな・・・これ・・・」と、笑い出していたのでした・・・

第2話

こうして、鬼太郎コナンの、声優仕事は、始まりました。

声優仕事も、バッチシ

予定通りで、映画版も、上手く、おさまりました。

しかし……

ディレクターさんが、「おもしろいから、今日は、早めに、終わろう」と

もう、自由に、してくれても、いいよ！今日は、予定よりも、早く、終わったからな！

じゃあ、今から、鬼太郎に、戻ってもらおうか」

と、笑いながら、言い出しました。

鬼太郎コナンは、元に、戻ろうとしましたが、目玉のおやじが、「あ〜！待ってくれ〜い！今日、一日だけ！頼む！ワシは、今日、一日だけ！江戸川コナンの、父親と、いうことで、しばらく、その姿で、いてくれ〜！」

と、嘆きだしました。

鬼太郎コナン「困りましたね〜。

今日は、仕事、終わったんだけど……？

父さんっいたら！じゃあ、今日、一日だけですよ！

一日だけ。江戸川コナンの、姿で、いきましょう！」

と、コナンに、切り替えてしまいました。

「じゃあ、ワシは、今日は、今から、一日だけ、江戸川コナンの、父親じゃ！のう、コナンくん！事件も、どうやら、解決したようじやから！スタジオ、その周辺でも、回ってくるかのう！」

と、笑いながら、言い出しました。

「いいよ！父さん！しかし、この姿でつても、やりにくいよね・・・」
「鬼太郎は、早く、元に、戻りたいと、ウルウル、情けないと、涙を、こぼしていたのでした・・・」

「いいんじゃない！ワシは、おもしろいもん！こんなことが、やれるとは！長生きしてきて、良かったわい！」目玉のおやじは、笑いながら、言いました。

「妖怪が、スタジオに、現れても、知りませんよ。僕。

だって、コナンの、姿じゃ、毛ばりも、リモコン下駄も、ないんだから！」^{コナン}鬼太郎。

目玉のおやじを、頭の上に、乗せたまま、江戸川コナンの、姿して、ネズミ男と、ネコ娘に、「お待たせ！今日も、無事に、事件解決！」と、笑顔で、言いました。

「ほんつとくに、切り替えが、大変ね・・・鬼太郎・・・」ネコ娘は、困っています。

「元にもどらね〜のか？その姿、何とか、ならね〜のか？コナンの、姿で、俺、これから、先が、説教されても、困るぜ！何だか、俺が、むかつくだけだぜ。俺達は、鬼太郎の、姿の方が、安心するぜ。」ネズミ男。

「それが、父さんが・・・一日、この姿で、いろって・・・」鬼太郎は、ため息。

「ハア・・・」ネコ娘と、ネズミ男も、ため息つきました。

こうして、江戸川コナンの、姿をして、しばらく、スタジオの中を、歩いていました。

すると、そう、元太、歩美ちゃん、光彦くん、哀ちゃんが、コナンの周りに、集まってきました。

「オメー、なんだか、大変な役に、なっちゃったんだってな・・・」元太。

「がんばってね！コナンくん！」歩美。

「あらら。鬼太郎さんには、戻らないのかしら？それが、鬼太郎のお父さん？

有名な、目玉のおやじさんね。

始めまして。私、灰原哀です。

初めて、お目にかかれて、光栄ですわ。

あなたとなら、私、上手く、つりあいそうですわ。

なるほど。これからは、仲良くしましょう

あなた、頭、よさそうなもの。

かわいいわね。」

哀は、笑顔で、目玉のおやじに、対して、感激して、言いました。

目玉のおやじは、身を、乗り出して、「いやはや、いつも、拝見させてもらっていますぞ。

おぬしが！灰原、哀ちゃんか？クール、じゃのう！」と、笑いながら、言いました。

今度は、灰原哀の、頭の上に、飛び乗った、目玉のおやじ。

2人して、クスクス、もう、溶け込んで、仲良くなっていました。

「だから、困ったことに、もどね〜んだよ！しばらく・・・妖怪が出たら、どうすんだよ！〜たく！」コナンは、腕組んで、後ろ向いて、困り果てて、言いました。

「番組、違うもん！」歩美は、困り果てて、言いました。

「仕方ね〜の！俺、よりによって、まさかの、今年から！

鬼太郎、やることに、なっちゃったんだから！

〜たく、複雑な、心境だぜ！特に、今年からはよ！

俺達の、コナンと、鬼太郎と、たぶん、俺、両方、映画、出演せんならんな。きつとな。」

コナンは、困りながら、うなずきながら、言いました。

さてはて、コナン達が、こうやっている間に、元太くと、光彦くんは、スタジオの、奥に、カラオケボックスを、見つけました。

そこで、カラオケの、ある1室が、「使用禁止」に、なっていました。

今日は、休業らしく、カラオケボックスは、動いていなかったの、廊下が、真っ暗でした。

元太くと、光彦くんは、いたずらして、スタジオの中を、見学していたのです。

「ドラクエゴッコだ〜、冒険ゴッコだ〜　ここは、ダンジョンだ！」

と、騒ぎながら、歩いていました。

そして、「使用禁止！」これに、対して、元太は、「少年探偵団の、好奇心が、うずまくぜ！」と、その部屋の中に、入りました。

その、部屋番号は、404号室でした。

いかにも、妖怪が出そうな、部屋でした。

妖気が、ただよっています。

すると、光彦は、怯えながら、「元太くん！カラオケの、後ろに、お札と、お水と、塩が、ありますよ！なんでしょう、これ・・・」と、言い出しました。

「おっ！？おもしろ〜じゃん！？」

この世に、妖怪なんて、いるわけが、ね〜ぜ！
きつと、どこかに、犯人でも、いるんだよ！」

と、元太くんは、悪ふざけをして、カラオケの、後ろに、はっ
てい、お札を、外してしまいました・・・

すると・・・？

「カラオケ〜！！人間め〜！画面の中に、くっつてやる〜！！」

と、封印が、とけてしまい、カラオケの、機械が！！まさかの、妖
怪に！！

「うわ〜！！」

元太くんと、光彦くんは、驚いて、カラオケの部屋から、飛び出
て行きました・・・

カラオケの、テレビと、マイクがついて、手と足がついてしまって、
変化した、妖怪カラオケ。

今回の、鬼太郎の、笑い話、戦う相手の、敵は、「カラオケ妖怪！」
である・・・

しかし、このスタジオに、まさかの、妖怪が、現れるとは、一体、
誰が、想像したで、ありましようか？

次回へ、続く。

第3話

こうして、元太と、光彦は、「まさかの、本物の、妖怪だ〜！誰か、助けて〜！！」

と、とりあえず、悲鳴を、あげながら、みんなのそこへ、走って、向かいました。

そう・・・下から、騒ぎ声が、するので、コナンは、「あ！？あいつら！？お前ら！

お〜い！一体、何が、あった！？こっちへ、来い！」と、元太と、光彦を、上へ、手招きして、誘導しました。

すると、下の階段から、突然、現れたのは！！

「カラオケ〜！！」

機械が、古くなかったからと言って、使わなくなったおかげで、俺、妖怪として、復活したぜ〜！

あの、2人が、封印を、といてくれたおかげでな！

スタジオで、大暴れだ〜！」

と、カラオケの、機械が、大暴れしました。

「キヤア！」蘭や、園子は、一緒に、逃げ出しました。

小五郎も、ビックリして、ネズミ男と、一緒に、逃げ出しました。

そう、マイクの、コードで、突然、締め上げられたのは、目暮れ警部さん。

目暮れ警部は、画面の中へ、吸い込まれてしまいました……

「うわー！」目暮れ警部は、苦しんでいます。

「ああっ！目暮れ警部！！」コナンは、助けようと思いました。この姿では、毛針りも、使えないし、手が、出せません。

これは、困ったことに、なりました。

「そんな……」蘭は、ビツクリ。

「本物の、妖怪……ちょっと！あなた達！鬼太郎の、仲間なんですよ？

助けなさいよ！」園子は、言いました。

「私達だって……怖いもん！やっぱり、鬼太郎が、いないと……」と、ネコ娘は、怯えてしまいました。

「情けないわね！あんた達ね！その人の、命令がなかったら、動けないわけ！？」園子は、怒っていたのでした……

江戸川コナンは、「父さん！変身薬で、元に、戻ります！これでは、無理です！

僕は、犯人逮捕が、主張であって、この姿では、妖怪退治が、出来ません！」と、叫びだしました。

「うん！鬼太郎に、戻って、戦闘開始じゃ！！皆を、助けるんじゃ！！変身じゃ！！」

目玉のおやじは、叫びました。

鬼太郎は、「ハイッ！」と、叫ぶと、変身薬を、使って、元の、鬼太郎の、姿に、戻りました。

そして、スミで、固まっている、少年探偵団を、発見

カラオケ妖怪は、どうやら、元太くと、光彦くんを、猛烈に、狙っている、様子でした。

「うわ〜！！」元太・光彦は、2人で、抱き合って、ガタガタと、怯えています。

「くらえ！髪の毛針！！」鬼太郎は、元太と、光彦の前に、立ちはだかると、とりあえず、2人を、助け出しました。

歩美ちゃんは、「ああっ！元太くん！光彦くん！

コナンくん！助けて〜！」と、泣き叫んでいます。

「歩美ちゃん！」鬼太郎は、「いけ！リモコン下駄！！」と、叫びました。

この時は、コナン、声が、かぶっています。

ズ〜ン！！

カラオケ妖怪は、後ろへ、ダウン。

歩美と、灰原も、助け出し、とりあえず、少年探偵団と、囲まれることに、なりました。

そう・・・後の、大人達は・・・どうなったかというところ・・・？

毛利小五郎さんも、飲み込まれてしまい・・・

毛利小五郎は、蘭が、「ウリヤ〜！」と、小五郎の、足を、むやみに、引っ張ったりして、助けようとしたましたが、失敗に、終わりました。

後ろへ、蘭は、ズテ〜ン！と、しりもちついて、倒れました。

蘭は、「お父さん！鬼太郎さん！助けてよ〜！」と、座り込んだじゃって、シクシク、泣き出しました。

そして、ついに、蘭も・・・

「キヤア〜！」顔ごと、カラオケ画面の中へ、引き込まれます。

ビックリした、鬼太郎は、「蘭！！蘭！！！」と、叫びながら、足を引っ張っていましたが、ついに、蘭も、吸い込まれて、しまいました。

鬼太郎は、いったん、下を向くと、怒りを、あらわにしました。

「許さないぞ！カラオケ妖怪！鬼太郎の時は、ガールフレンドは、ネコ娘なんだけど！」

江戸川コナンの時は・・・ううん、じゃ、なかった。

工藤新一（コナンは、名乗らない。）の、時は、蘭、姉ちゃんが、好きなんだ！

別の意味で、恋愛関係が、ややっこしいけど！よくも、蘭を！！」

鬼太郎は、目に涙を、貯めて、怒り出すと、「くらえ！下駄キークツ！蘭姉ちゃんの、仇だ！」

と、叫びだすと、カラオケ妖怪に、一発！怒りの、蹴りを、思い切り、入れました。

ズーン！

カラオケ妖怪は、いったん、倒れましたが、今度は、ディレクターさんを、狙っては、カラオケ画面の中に、吸い込んでしまいました。

最後には、ディレクターさんも、一緒に・・・

コナンキャラ達・・・大人関係が、結構、画面の中へ、吸い込まれてしまったのでした・・・

「キヤー！キヤー！」スタジオは、大騒ぎに。

目玉のおやじが、「これは、いかん！

鬼太郎！

ひとまず、少年探偵団だけでも、連れて、外へ、逃げるんじゃ！

ここは、危険じゃー！

いったん、退却して、作戦の、ねりなおしじゃ！」と、叫びました。

「ハイッ！」鬼太郎は、「君達は、さあ、こつちへ！」と、少年探偵団メンバー達を、引き連れて、階段を、下りていきました。

そして、一階へ、みんなで、降りてくると、鬼太郎は、仲間を、呼び出しました。

「ほい 鬼太郎どん！お任せばい！」と、一反もめんが、登場

「いゝ！？白い、布切れが、しゃべってるゝ！？目が、あるゝ」元太は、怯えています。

「元太くん！怯えてる、場合じゃ、ないですよ！僕達は、これに乗って、逃げましょう！」

さあ、鬼太郎さんも！」と、光彦は、叫びました。

「うん！くそっ・・・」鬼太郎は、とりあえず、少年探偵団を、解放しなければ、どうしようもないということ、いったん、彼らを、今回、ゲゲゲハウスへと、招待したのでした・・・

そこで、作戦会議が、行われます・・・

第4話

こうして、ゲゲゲハウスに、戻ってきました、鬼太郎。

鬼太郎は、少年探偵団達を、招きいれると、みんなを、いったん、座らせました。

鬼太郎は、お茶を、出してあげたり、お菓子を、出してあげたりした後、落ち着きを、取り戻しました。

そして・・・厳しい、顔つきに、なりました。

「さうて。

どうして、君達が、今回、狙われるハメに、なったのか。

話してもらおうよ！

どうも、様子を、見てみると、歩美ちゃんと、哀ちゃんは、この事件には、関係なさそうだからな。

さうて！君達！話してもらおうよ！」

と、厳しい顔して、言いました。

光彦くんが、詳しい、説明を、しました・・・全部を・・・

話を、聞いていた、鬼太郎は、怖い顔を、特に、元太くんに、しだしました・・・

元太くんは、「と、いうわけなんだ。光彦の言う通りだぜ！鬼太郎！俺、悪ふざけ、ストレス発散と、少年探偵団と、してのな、好奇心で、入ったんだよ！悪いか？ドラクエゴッコ・・・ダンジョンだと思っつてよ！俺、入ったんだよ！」

と、話しました。

「悪ふざけ？少年探偵団としての、好奇心？

ドラクエゴッコの、ダンジョンだって？

お札とつたのも？

そんな、悪ふざけで、すむ問題だと、思っつてるの？

それっつてね、殺人事件を、見て、解決することよりも、宝探しをすることよりも、と〜んでもないこと、なんだよ〜

いいかい？少年探偵団の、好奇心と、妖怪退治はね、全然、意味が、違っつんだよ。

今回のことは、すべて、君達2人の、大きい、原因なんだ。

だから、君達2人には、責任を、取っつてもらっつよ。

特に、今回の、犯人の、元太くん。

君は、特に、少年探偵団の、団長さん、だっつたね〜

だったら、なおさらだ。

自分達のした、落としまえば、自分達で、つけなくては、ならない。分ってるね。」

鬼太郎は、怖い顔をして、言いました。

「ちよつと！おたくら！」と、一反もめんが、怖い目つきをして、2人に、迫ります。

「いゝ！？ごめんなさゝい！封印を、といちゃった、場所を、教えてくださいから！」

と、光彦と、元太くんは、抱き合いながら、怯えていたのです。

歩美ちゃんと、哀ちゃんは、「私達、かかわらなくて、よかったよね。」と、話していました。

元太くと、光彦くんは、2人で、抱き合って、ガタガタと、怯えています。

鬼太郎は、「君達と、一緒に、今回は、乗り込むつもりでいるよ。少年探偵団としての、大仕事だ！しっかりとしなさい！」と、言いました。

「事件解決ってより、マジに、これって、妖怪退治だぜ。怖い・・・」元太は、怯えています。

「僕が、その、問題の、部屋の、404号室へ、カラオケ妖怪を、奥へ、追い詰める！」

君達2人は、地下一階の、その元の、部屋から、おふだと、水を、僕んそこへ、持ってきてほしい。」

鬼太郎は、真剣な、顔をして、言いました。

「おう！少年探偵団の、大仕事だな！」元太は、言いました。

「今回は、コナンくんが、いませんからね・・・というより、今の、鬼太郎の姿が、コナンくんですからね・・・」光彦は、ややこしいけど、怖いと、身震いしていたのでした・・・

こうして、鬼太郎は、「歩美ちゃん！灰原！2人は、ここで、待っててね。」

と、笑顔で、優しく言いました。

「いいわ。しつかりね！鬼太郎・・・いいえ、江戸川くん。今の、あなたは、江戸川くんだったわ。ほんとと、今年から、声の、使い分けが、これは、ややこしいことに、なったわね。」哀は、言いました。

「ほんとだよね」

っていうか、鬼太郎さんの姿してさ、コナンくん、演じてほしくないわ。

コナンくんの、姿で、やってほしいわよね」歩美は、ブーブー、文句を、言っていました。

後から、砂かけばあさんが、変身薬を、持ってきてくれました。

「何かの役に、立つかも、しれん。持っておいき。」と・・・

鬼太郎に、変身薬を、手渡したのです。

「ありがとう！砂かけババア！」鬼太郎は、お礼を、言いました。

「なぐに！いいってことじゃ。この子達は、ワシらに、任せておけ！」と、砂かけばあさんは、笑顔で、言いました・・・

こうして、鬼太郎は、目玉のおやじと、一反もめんと、元太、光彦と、一緒に、さっきの、スタジオへ、戻りました・・・

最終回

こうして、スタジオに、再び、乗り込みました、鬼太郎、一反もめん、目玉のおやじ、元太くん、光彦くん。

元太と、光彦は、2人して、404号室に、入ると、おふだと、お水を、手にして、待ち構えていました。

すると、鬼太郎が、髪の毛針りや、リモコン下駄で、応戦し、404号室へ、カラオケ妖怪を、奥へと、追い詰めます。

「今だよ！2人共！」鬼太郎は、叫びました。

元太と、光彦は、2人で、お札を、カラオケの後ろへ、張りましたが、きかないのです。

鬼太郎は、「え！？ウソ！？どうして・・・」と、血相変えて、驚いています。

目玉のおやじは、身を乗り出すと、叫びました。

「しまった！そうか。長年間たつと、お札も、効力が、なくなるんじゃないよ！

悔しいのう！ゆういつの、封印が、やれん！あゝ！音痴の人が、いればのう！

音痴の力で、奴を、倒せるんじゃないが！カラオケを、破壊するしかない！」

と、困り果てて、言いました。

「音痴！？音痴なら・・・」光彦は、元太くんと、一緒に、頭を、ひねりました。

「あゝ！！」元太と、光彦は、笑いながら、叫びました。

「鬼太郎さん！ねえ、鬼太郎さん自身は、音痴なの！？」光彦は、聞きました。

「いや・・・残念だけど、僕は、音痴じゃないよ。だから、困ってるんじゃないか。」

と、言いました。

元太が、「じゃあよ！変身薬を、使って、コナンに、戻れ！一緒に、やろうぜ！」と、笑顔で、言いました。

「そうです！コナンくんなら、音痴です！」光彦は、笑い出しました。

「やっぱり、そうなるのね・・・僕・・・今年から、見事に、こうなるの」

鬼太郎は、ウルウル、情けないと、涙こぼしだすと、変身薬を、使つて、江戸川コナンに、再び、変身しました。

「おい？元太！これからは、あんな、いたずら、するんじゃない、ねぞ！」

コナンに、すっかり、戻りました。

「やっぱり、僕らは、こうでなくっちゃ！」光彦は、笑いながら、言いました。

「僕が、歌で、こいつを、やっつけてやる！犯人逮捕！じゃなくって、妖怪逮捕だ！」

コナンは、ニヤニヤすると、カラオケ妖怪の、マイクを、持ってきて、引っ張ってきました……

「お？俺様を、使って、歌ってくれる、奴が、いたぜ……」今まで、使ってくれなかったものだから、うれし涙を、こぼす、カラオケ妖怪。

後で、とんでもないことになるとは、知らずに……

コナンは、「ボゲ〜 ボゲ〜 ボゲ〜」（歌いだしました。ゲツゲツゲゲゲのゲ〜 朝は、寢床で〜 と歌っている、つもりである。）

何と、江戸川コナンとしての声で、最新で、始まった、「ゲゲゲの鬼太郎」の、あの、新しいヴァージョンで、主題歌を、それも、見事な、音痴で、歌いだしたから、爆笑ものである。

光彦と、元太は、手を、叩いて、大笑い……

カラオケ妖怪は、「ギャ〜！こりゃ、たまらん！」

と、逃げ出そうとしましたが、「俺が、逃がさないぜ〜、さあ、カラオケ妖怪！覚悟しろ！！」と、怖い、目つきをする、コナン。

この時の声は、鬼太郎でした

「ボゲ〜 ボゲ〜 ボゲ〜 （みんなで歌おう ゲゲゲのゲ）」
歌いまくって、カラオケ妖怪は、「ギャ〜・・・もう、だ〜めだ〜
！」

と、スツカリ、目を、回してしまい、気持ち悪くなってしまって、
最後には、ボツカ〜ン！！

カラオケ妖怪は、爆発して、倒されました・・・

コナン、元太、光彦は、3人して、顔を、合わせると・・・

「やった〜！！」

少年探偵団！妖怪退治、初勝利〜！！

と、叫び、大喜び、しだしたのです・・・

目玉のおやじは、コナンの、頭の上から、飛び出すと、「やれやれ。
なんだか、ややこしいことに、なってきたわい。今年から・・・特に、
声のうー！」と、笑いながら、言いました。

「ほんと、ややこしかね・・・」一反もめんも、あきれていたのです
た・・・

こうして、変身薬を、使って、やっと、元の姿に、戻った、鬼太郎・
・・・

「ふう・・・やっと、元に、戻れた・・・」鬼太郎は、疲れたと言いました・・・

こうして、カラオケ妖怪が、倒された後、画面の中に、吸い込まれた、他の、ディレクターさんや、コナンキャラゲストさん達も、元に、戻りました・・・

目暮れ警部さんも・・・

スタジオは、平和に、なったのでした・・・

歩美ちゃんと、哀ちゃんは、砂かけばあさんが、ちゃんとして、後で、スタジオの方に、送りどけて、くれたのでした・・・

こうして、仕事が、終了して、無事に、事件が、解決して、帰り道のこと。

ネズミ男は、江戸川コナンのことが、どうも、嫌いらしいのだ。クソ生意気で、優等生すぎるといのが、理由らしい。自分が、説教されると、虫唾が、走るそうだ。

「ほんつとに、ややっこしいし、コナンの姿で、俺に、説教してくるとよ！

マ〜ジ、かわいくないガキ！ク〜ソ、生意気なガキだ！ってことだよ！こちらから、江戸川コナンを、見たら、すんげ〜、鬼太郎よりも、超、むかつくんだよ！これなら、鬼太郎に、言われた方が、俺としては、マ〜だ、かわいらしいし、マシだぜ。」

と、鬼太郎に、江戸川コナンに、ついて、俺様は、嫌いだと、文句、

タラタラ。

「そ〜う？江戸川コナンが、嫌いなんだ。

ネズミ男にとっては、ネコ娘と、江戸川コナンくんが、これからの時代は、弱点に、なるわけだね！

じゃあ、これからは、僕、江戸川コナンの姿で、ネズミ男に、説教しようかな

ネズミ男は、僕ってよりは、コナンくんのが、強敵だったのか？

僕より、小さい子に、言われるってことはね、ショックだもんね〜

じゃあ、これから、悪いことをする、裏切り行為したら、江戸川コナンに、変身して、マジになって、説教しますか

相手が、ネズミ男なら、ワザワザ、僕の、毛針りや、チャンチャンコ、リモコン下駄を、使わなくても、江戸川コナンに、変身してさ。

サッカーボール、アガサ博士が、作ってくれた、キック力、増強シューズで、高めれば、一発で、十分」

鬼太郎は、ネズミ男が、江戸川コナンに、得意の、サッカーで、ぶっ飛ばして、こらしめられている、シーンを、想像して、歩きながら、クスクス、笑っているのですた・・・

「これからも、お前、大変じゃのう！

コナンくん！？いや、鬼太郎・・・

ワシには、2人の、新しい、息子が、出来たわい・・・」

と、ゲラゲラ、笑い出す、目玉のおやじさんなのでした。

「ちよつと、それ、何か、絶対、違つと、思つんですけど??」
苦笑いする、鬼太郎。

「ほんとに、これは、ややこしいことに、なつたわ。いゝい?声を、演じる時、今年から、特に、使い分けを、気を、つけなさいよ! コナンの時に、鬼太郎に、ならないこと!そして、鬼太郎の時に、コナンの声で、やらないでね!あゝ!ややこしい!!頭痛いよゝ!」
と、困り果ててしまい、納得して、うなずいている、ネコ娘なのでした・・・

こうして、鬼太郎の、新しい、仕事や、冒険は、まだまだ、始まつた、ばかりである・・・

これから、どうなっていくのやら。今から、楽しみな、段階である・・・

(終わり)

最終回（後書き）

今年の、2007年の、「ゲゲゲの鬼太郎」アニメ版、4月1日から、毎週日曜日に、放送が、いよいよ、スタートしました。

第5部という、新しい、シリーズに、なっているそうです。

主人公の、鬼太郎役が、高山みなみさんということ、なじみが、ありますので、皆さんが、よく知っている、「名探偵コナン」の、江戸川コナンと、多少、声が、どうしても、どこか、かぶっていることから、こういう、おもしろい、アレンジで、製作してみました。

ちよつとした、爆笑ストーリーと、なっておりますので、楽しんで、読んでみて下さい。

読んで下さって、ありがとうございました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7981b/>

「ゲゲゲの鬼太郎 第5部」 ~ 鬼太郎の、声優仕事 ~

2011年10月3日16時59分発行